

りんごにおけるリンゴクビレアブラムシの発生生態と防除法

(園試環境部)

1. 背景とねらい

近年県内各地でリンゴクビレアブラムシの発生が増加しており、多発するとその後の生育に影響を及ぼすことから、防除時期や有効薬剤の検索が要望されていた。そこで、発生生態と防除法について検討した結果、成果が得られたので参考に供する。

2. 技術の内容

(1) 被害の様子

淡緑色をした成幼虫が芽出前後から落花期に花叢葉や新梢葉に寄生する。寄生された葉は内側にゆるく大きく巻き込む。

(2) 発生生態

りんご枝上に卵で越冬する → 芽出前後から幹母(卵から孵化した無翅雌虫)が出現する → 芽出10日後から花叢で胎生生殖を始める → 開花期に寄生盛期となり、新梢にも寄生する → 落花期から有翅雌虫が増加し寄生密度は急減する → 有翅雌虫は未知の植物に移動する → 秋に再びりんごに移動して卵を産む

(3) 防除法

芽出10日後に有機燐剤またはマイクロデナポン水和剤+アブラムシ防除剤を散布する。

3. 指導上の留意事項

- (1) 訪花昆虫の関係で芽出10日後に殺虫剤散布ができない園地では、芽出前後にマシン油乳剤または芽出当時に有機燐剤を特別散布するのが有効である。
- (2) 同じ時期にリンゴコブアブラムシが発生するが、寄生葉の形状や虫の体色から容易に区別できる。

4. 試験成績の概要

表1 リンゴクビレアブラムシ寄生消長(平成4年)

調査 月日	花叢			新梢			りんご生育状況
	捲葉	無翅	有翅	捲葉	無翅	有翅	
5/13	10	449	0				5/12 開花始め
19	12	156	31	5	241	19	
26	12	2	3	15	94	8	5/23 落花期
6/ 2	-	0	0	15	5	1	

10花叢及び調査花叢から出た8新梢調査

表2 リンゴクビレアブラムシ寄生消長（平成6年）

調査 月日	花・葉叢				新梢				りんご生育状況
	捲葉	幹母	無翅	有翅	捲葉	幹母	無翅	有翅	
4/13	-	133	0	0					4/10 芽出当時
19	-	117	0	0					4/20 芽出10日後
23	-	96	0	0					
26	-	92	12	0					
5/ 2	-	73	294	0					
10	22	22	385	0	0	0	4	0	5/ 7 開花始め
20	56	0	27	3	20	0	23	1	5/17 落花期

3枝に標識し、花・葉叢及び新梢調査

表3 リンゴクビレアブラムシ芽出10日後防除試験（平成6年）

供試薬剤	希 積 倍 数	寄生無翅虫数				防除 効率
		散布前	3日後	6日後	12日後	
ダ ー ズ バ ン 水 和 剤	1000倍	153	8	3	14	97
ミクロデナポン水和剤	1200	164	60	71	212	57
キ ル バ ー ル 液 剤	1500	126	8	4	8	97
無 処 理	-	117	96	104	367	

散布時期：4月20日

表4 リンゴクビレアブラムシ落花期防除試験（平成6年）

供試薬剤	希 積 倍 数	散布前		3日後	
		無翅	有翅	無翅	有翅
ダ ー ズ バ ン 水 和 剤	1000倍	116	31	0	0
スミチオン水和剤	1000	120	21	0	0
ダイアジノン水和剤	1000	116	18	1	0
スプラサイド水和剤	1500	137	24	0	0
キ ル バ ー ル 液 剤	1500	121	15	0	0
エストックス乳剤	1500	108	11	0	0
無 処 理	-	123	12	23	3

散布時期：5月20日